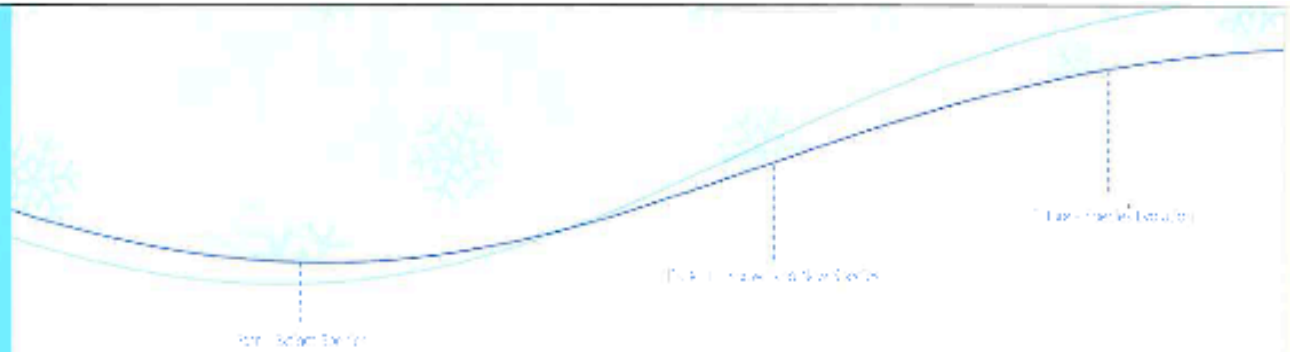


南極海洋生物の個体数調査

(CAML)は南極海における生物多様性の分布とアバンドランスを調査し、それが気候変動にどのような影響を受け、またそれは現在、人間が恩恵を受けている南大洋の生態系にどのような変化をもたらすのかを調べるものである。

CAMLは将来、変化の影響を測るための、確固たる基準となるだろう。



南極大陸を取り巻く南大洋は、人間にとっては冷たい荒野のようである。しかし、そこには Gondwana 大陸が分裂し、南極大陸が南極に孤立して以来、4千万年かけて進化した、豊かで多様な動植物が生息している。南極大陸をとりまく南極周極流は海流の混ざり合う場所であり、また海洋大循環のポンプともなっている。



南大洋の生物多様性に関する知見は断片的である。ある場所には驚くほど多くの種が生息し、固有性が高い。また、いわゆるカニなど、いくつかの種類の生物はまったく生息してない。一方、別のグループは無数の形態に放散した。CAMLのロゴの中心となっているウミグモは南極海で特に繁栄したグループである。

南極海は生物生産性が高い。鯨、ペンギン、アザラシ、ミズナギドリ、アホウドリなどが、高い密度で生息していることがその証拠であり、他の海域とは比較にならない。

CAMLは、南極における海洋生物多様性の分布とアバンドランスを調査し、どのように気候変動の影響を受けるか、現在人間が恩恵を受けている生態系がどのように変化するかを調べるための、国際的な5年計画のプロジェクトである。すべての南極海洋生物の多様性に関するデータをまとめ、国際極年への貢献として2007-08年の南極の夏に大規模な野外調査を実施する。そして将来、変化の影響を調べるために行われるであろう調査のために遺産を残すことになる。

CAMLはすべての海域、生物群、環境、研究分野の知見を統合することを目指している。重要な進化的生態学的な疑問に答えるためには、近代的な分子生物学的手法を用い、海底や海底近くの画像を得るためには、最先端の遠隔操作撮影技術を用いる。また一般へのアウトリーチプログラムを積極的に展開し、南大洋の魅力を多くの人々に伝えていく。

“CAMLは単なる個体数調査以上のものである。海洋生物多様性と海洋の変化に関するわかっていること、まだわからないこと、そしてはかりしれないことに基づいて、南極海洋生物群に優先順位をつけることになるだろう”



CAMLはアルフレッド・P・スローン基金の支援を受けています



BIODIVERSITY. DISTRIBUTION. ABUNDANCE.

CAMLの生物多様性データは南極研究科学委員会の海洋生物多様性情報ネットワーク(SCAR-MarBIN)をとおして、政府や海洋管理に関心を持つその他の機関が利用できるようにする。

CAMLは環境と生物の関わりが重要と考え、海洋環境学者とも協力していく。



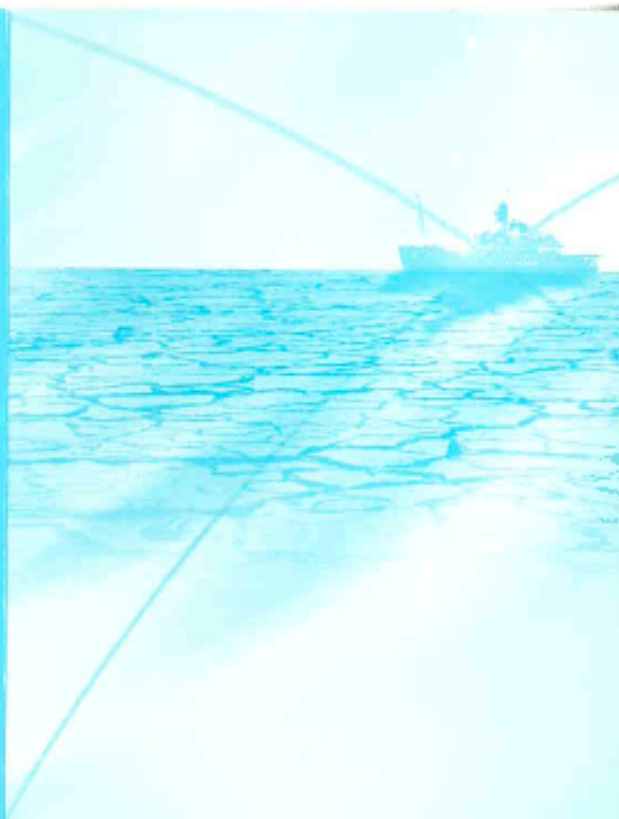
南極を取り巻く南大洋は3500万平方キロメートル、世界の海の10%を占めている。460万平方キロメートルの大陸棚（水深<1000m）のうち160万平方キロメートルは常に海氷に覆われている。大陸棚斜面（水深1000-3000m）は230万平方キロメートル、2800万平方キロメートルは水深3000mを超える深海平原である。冬には2000万平方キロメートルが海氷に覆われ、夏にはその3分の2がとける。



事務局
Census of Antarctic Marine Life
Australian Antarctic Division
203 Channel Highway
Kingston Tasmania 7050 Australia

Tel : +61 3 6232 3124
Fax : +61 3 6232 3583

Email : caml@aad.gov.au



Census of Antarctic Marine Life (CAML) 南極海洋生物の個体数調査

国際極年

